

ミニトマトの128穴セル成型苗定植栽培における主枝更新による冬期草勢回復技術						
[要約] ミニトマトの品種「サンチェリーエキストラ」の128穴セル成型苗を直接定植し、促成栽培を行う場合、11月上中旬頃の8段までに主枝更新を行うことにより、冬期の草勢が回復し、果実の肥大及び収量が増加する。						
総合農林試験場・野菜花き部・野菜科	専門	栽培	対象	果菜類	分類	指導
資料名：						

[背景・ねらい]

ミニトマト（品種：サンチェリーエキストラ）の128穴セル成型苗を直接定植した促成長期どり栽培において、11月～6月と長期にわたる収穫となるため、冬期に草勢が落ちやすく、葉先枯れや果実が小玉傾向になりやすい。

このため、冬期の草勢を維持するため、主枝更新技術の検討を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 主枝更新の方法は、更新段数の上部先端及び花房を摘心し、腋芽を伸長させる。
2. 主枝更新を行うことにより、慣行の無更新栽培と比較して収量が増加し、平均1果重が大きくなる。更新時期は冬期の更新より、11月上中旬頃の8段果房までに行うと効果が高い（表1）。
3. 月別収量は、無更新栽培よりも6段更新では1月に、8段更新では2月にやや少なくなるものの、3月以降の収量が増加し結果的に多収となる（図1）。
4. 果実糖度（ブrix）は、最も高い冬期で11程度、3～5月の時期で9～10程度となり、無更新栽培と同等程度となる（図2）。
5. これらのことから、128穴セル成型苗を直接定植した促成長期どり栽培の場合、主枝更新を行うと草勢維持の面で効果がみられ、更新時期は冬期に入る前の11月中旬、段数で言えば8段までに行うと草勢回復が早いと判断される。

[成果の活用面・留意点]

1. 8月下旬～9月初旬の直接定植栽培で活用する。

[具体的デ - タ]

表 1 主枝更新が収量、品質に及ぼす影響 (a 当たり)

区	総収量		商 品 果		裂 果		その他		商品 1 果重	商品化 率 (%)
	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量		
	個	kg	個	kg	個	kg	個	kg	g/果	%
6段更新	112,989	1,464	109,296	1,420	3,395	40	297	4	13.1	97.0
8段更新	115,369	1,480	109,313	1,407	5,766	68	288	5	12.9	95.1
10段更新	117,906	1,385	110,608	1,306	6,947	75	350	4	11.8	94.3
無更新	114,047	1,292	102,208	1,158	11,497	132	341	3	11.3	89.6
有意差		*		*		N.S		N.S		*
l.s.d(5%)		149		145						1.5

注 1) 播種日 : 8月2日、定植日 : 9月1日、栽植距離 : 畦幅160cm × 株間60cm 2条植 (208株 / a)

2) 6段更新 : 10/31に上部の先端(7段)果房を摘心し腋芽を伸長、以下8段更新 : 11/18摘心、
10段更新 : 12/1摘心、無更新 : 主枝1本斜め誘引

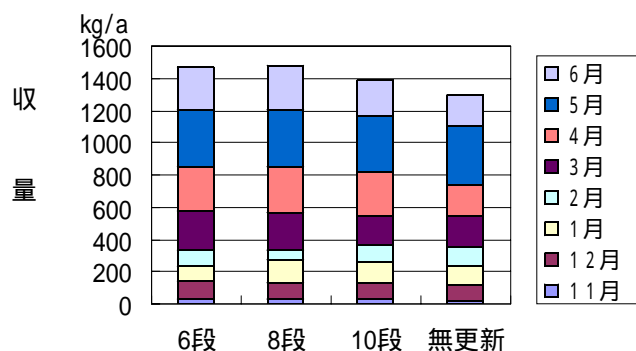


図 1 月別収量

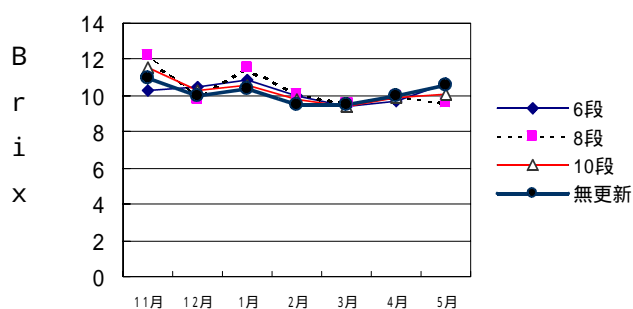


図 2 月別糖度推移

[その他]

研究課題名 : 施設野菜の省力化と生産安定

予算区分 : 県 単

研究期間 : 平成 1 2 年度 (平成 8 ~ 1 1 年)

研究担当者 : 居村正博